



9月10日(金)レベルⅣ①「倫理問題の解決」の研修を実施しました。

今回、事前学習として、人生の最終段階における「命の選択」「治療の選択」の看護場面でモヤモヤしたことを、臨床倫理の4分割法を用いて情報の整理を行いました。そして、研修では2グループに分かれて研修生が体験した事例を発表しました。事例内容は最近体験した内容が多く、研修生同士で共感できる内容でした。その後、事例を用いてグループワークを行いました。

事例の概要

Stage IVのすい臓がん患者。抗がん剤の治療効果が期待できないとICを受け、自宅に帰りたく願う患者と自宅ではみれないという妻。予後については週単位であると妻は説明を受けたが、妻の希望で患者には伝えていない

グループワークの内容

- ①事例を、臨床倫理の4分割法を用いて情報整理を行う
情報を整理していると、QOLがなかなか出てこなかった
- ②整理した情報から、不明確な点や疑問点を抽出する
患者は最期をどこで過ごしたいと思っているのか、治療はどこまで望んでいるのか？
家族と、病気についてどの程度話し合っているのか。
家族の思いは？家族は何を不安に感じているのか。
- ③出てきた内容を検討し、対応を考える
患者・家族に話を聞く。家族に患者の考えや社会資源について情報を提供する
- ④倫理原則を用いて、意思や価値観を分析してみる
予後を伝えないことは自律の原則に反しているが、本人を傷つけないと善行の原則に則っている
- ⑤倫理的問題に対して、自分がどう行動するか考える
後輩が倫理的問題に困っていたら一緒に考え、患者のもとに一緒に行く
多職種カンファレンスの開催
患者の思い、考えを確認し患者を尊重した関りを実践する



研修生は、とても悩みながらグループワークをしていました。事例を通して、自己決定の権利を尊重するために患者の思いや考えを確認することの大切さに気付くことができました。日常の臨床には常に倫理的な問題があります。今後、研修生にはリーダーシップを発揮し、問題解決できる行動をとってほしいと願っています。